

イメージの家族内力動

—ノーマルな児童のロールシャッハ・テストから見た家族関係—

井原成男*

I. はじめに

われわれは世界をあるがままに見ているわけではない。むしろ世界はわれわれがそれをどうイメージするかによって様々に変化する。例えば、妄想によって苦しんでいる精神分裂病患者の行動は、客観的な世界そのものに対する反応としてみれば奇怪なものであるが、彼が世界をどのようにイメージしているかを知ることができればより了解しやすいものになるであろう。これは病者に限らずわれわれ自身についても当てはめてみる事ができる。また、知性的なものごとについてはかなり客観的に判断することのできる人でも、感情的側面についてはそうもいかない、という事実を考え合わせると、このことはいっそう分かり易くなる。ところで、このような感情的側面による結びつきの強いものの一例として、家族を挙げることができる。本稿では、あるノーマルな児童(複数)とその母親に施行したロールシャッハ・テスト(以下ロ・テストと略す)を使って、その家族の家族内力動について考察したい。

ここで本論の目的を2つあげておく。ひとつは①筆者が先に報告した3つの症例¹⁻³⁾との比較のためである。筆者はAnorexia Nervosaの症例^{1, 2)}を、イメージの母子コミュニケーション能力からみて重度、夜尿の症例^{3, 4)}を中度、心因性頭痛の症例^{5, 6)}を軽度とし、今回報告するノーマルな児童を加えた比較検討を現在行いつつある。さらに、②イメージにとって家族がどのような役割を果たしているのかを追求したいということがあげられる。これは、イメージの母子相互作用について考察する中から、むしろ自然に浮かび上がってきた課題である。父親については特にロ・テストをとっ

たわけではないが、それに代わるものとして、筆者が母子にやってもらった父親カード・母親カードの選択によって、父親の家族内における心理的な位置についてもある程度の推測がなされたのである。本論はこの②を中心にして展開されるであろう。

さて、イメージは決して2度と返らぬ刹那的なものではない。それは経験としてわれわれの脳中枢に蓄積されると考えられる。藤岡⁷⁾は比較行動学の立場からこのことを「イメージタンク」と表現し、また中沢⁸⁾は保育学の立場から「イメージのファイル」と表現している。タンクはイメージが保持されていること、ファイルは単にそれが保持されるだけでなく使用され、生かされることを連想させて、なかなか見事な表現である。

ところで、タンクされ、ファイルされているといっても、それは何処になるのか?これが筆者のもった疑問である。それは確かに脳中枢の中になのであろうが、われわれは脳を開いてそこに「イメージ」を探し出せるわけではない。内容としての「イメージ」を追求しようと思えば、やはりそれはイメージそのものの中に探されなければならない。

レイン⁹⁾は『家族の政治学』の中で家族のイメージについて次のように述べる。

……「家族」は家族の成員間の関係に関していうならどのような機能をもつのでしょうか。「家族」、つまり幻想的構造としての「家族」は、成員間に或るタイプの関係を課します。それは互いの内部にその「家族」を分有し合わない人々のもつ諸関係とは異ったオーダーの関係です。「家族」とは振り入れられた客体ではなく、振り入れられた関係セツトなのです。

「家族」は、つまり人がその内側にいるところの一つの内部系としての「家族」は、次のような系からも必ずしも明確に区別できないかもしれません。「子宮」「乳房」「母親の身体」等々のようにすこぶる不適切な名前しか人が与え

* 東京慈恵会医科大学小児科心理

[〒105東京都港区西新橋3-25-8]

(長野大学産業社会学部)

ることのできない系、からです。「家族」は生き生きしていると感じられるかもしれないし、死にかけているか死んでいるように、あるいは動物とか機械とか、それから子供が描く顔一家一身体図のような人間コンテナと感ぜられるかもしれません。この人間コンテナは庇護的であったり、破壊的であったりします。このコンテナは諸要素のセットであって、その中には自分が入る区劃もあれば、一諸に他者たちと入る区劃もあります。

家族は織布、花、墓、監獄、城として想像されることがあります。自己は家族そのものよりもより多く家族についてのイメージを意識して、それらのイメージを家族へと写像するかもしれないのです。

「家族」の空間と時間は、神話の空間と時間に似ています。そこでは時間と空間は一つの中心のまわりに配置され、周期を繰り返します。では、誰が、何が、どこが家族の中心なのでしょう？

ある記述によると

「私の家族は花のようでした。母が中心で私たちが花びらでした。私が散ったとき母は自分の腕を失ったかのように感じました。彼ら（兄弟）は、今でもこのようにして彼女のまわりで、じっと一緒に居るのです。父は決して、そのような意味では家族の内に入ってこないのです。」

す。」

この家族は、ある物体のイメージによって表象されています。このイメージの機能は、ある植物的構造の部分として存在するという経験を伝達することです……。

ここにはわれわれの中に「家族」がセットとしてイメージされることが詳述されている。恐らくわれわれの家族内での行動はこのイメージに対する反応として集約される。（筆者はこのようなイメージをロ・テストから把握する試みとして、父親カード、母親カード、自己カードなどとならんで「家族カード」を選ばせてみてはどうかという着想をもっている。つまり、あなたの家族のかんじにもっとも似ているのはどのカードですか？）

われわれが家族に対してもっているこのようなイメージは、先に述べたイメージがタンクされ、ファイルされる場を提供していると考えられる。この家族のイメージの上に個々の父親イメージ・母親イメージ・兄弟姉妹イメージや自己イメージが成り立っていると思われる。さらに、この個々のイメージの上に各個のイメージ（eg. 怪物・女の人・女の子・蝶々etc.）があり、そのまわりに未だ言語化され得ない混沌としたイメージ

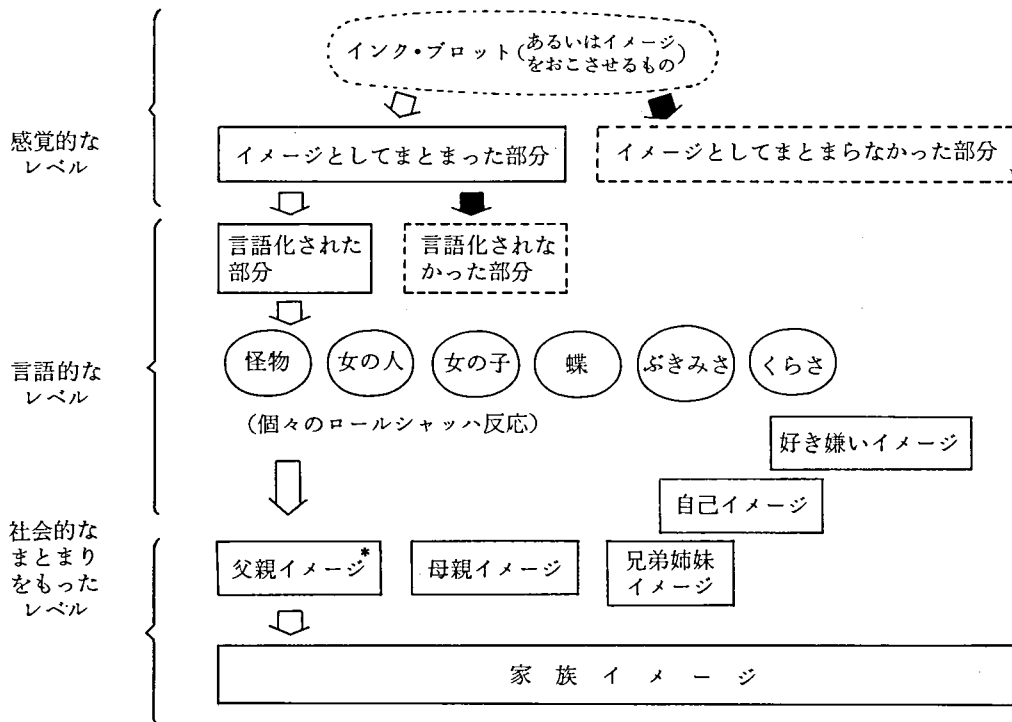


Fig. 1 イメージ(対人関係的イメージ)の階層構造
*あるいは父親カード(以下同様である)

がへばりついていると推測される。このイメージの階層(ヒエラルキー)を Fig. 1 に図式化した。家族イメージはもっとも抽象性の高いイメージであり、対人関係に関連したイメージの集約される場である。(対人関係に関連しないイメージについては勿論この限りではない。)

本論では以上の図式を念頭において、2名のノーマルな女兒(姉妹)とその母におこなったロ・テストとその推測能力についてみていきたい。さらに、その考察を通してこの家族内の精神力動についてまとめてみたい。

最後に、筆者はこれまでの報告¹⁻⁶⁾でロ・テストを使って、母子のイメージの側面における相互作用を調べ、それを治療的に役立てる試みを紹介してきたが、この多分に試行錯誤的な試みに

II. 母子のロールシャッハ反応

対象にした家族は父・母と3姉妹の5人家族である。父・母は共働きで2人とも極めて知的な職業についている。姉妹はロ・テスト施行時点で高2・小6・小1であった。今回は小1の妹についてはテストを行わず、高2(17歳)と小6(12歳)の2人のみを対象とした。この2人のそれぞれについて母に反応を推測してもらった。勿論、母についてもロ・テストを施行した(以下2人なので高1の子を姉、小6の子を妹と呼ぶことにする)。

母子のロールシャッハ反応について考察するための原資料としてプロトコルをそのまま記載した。

Table 1 推測の3段階の測定内容

		測定内容
i	free response (推測)	両者の資質(個性)の類似性
ii	suggestion (暗示・ヒント)	他者(子ども)の反応パターンの推測(判断)能力
iii	explanation (説明)	他者(子ども)の反応への共感・受容能力

Exchange Rorschach Method (交換ロールシャッハ法)⁹⁾という名前をつけ、現段階での定式化を行っておきたい。手続を簡単に説明すると、①子どもにロ・テストを施行する、②別場面で母にロ・テストを施行する、③日を改めて子どものロ・テストを母に推測してもらい、④母のロ・テストを子どもに推測させる(治療的意味をも含めてこの④はこれまで行わなかったが、筆者は現在④も含めた方法がある夜尿の子どもに試みているので、いつか報告の機会もあると思う)。さらに、③段階目を3つの段階に分け、i)何もヒントを与えずに子どもの反応を母に推測してもらい、ii)何をみたか(自由反応段階の反応)のみ教えて、領域、内容など判断できるかどうかをみる、iii)何をどこに見たかを教えて、それを母が共感・受容できるかどうかをみるという3段階とした。以上のi)~iii)が測っているものを表にすると上図のようになる(Table 1)。

それぞれのカードについて、妹の反応、姉の反応、母の反応の順に示した。それぞれ、《妹》《姉》《母》と記してある。自由反応段階については(Per.)、質疑段階については(Inq.)と略記した。領域はクロッパーら(Klopfer & Davidson)¹⁰⁾に従い()内に記してある。ロ・テストの施行日時は妹・姉が昭和57年3月27日、母は昭和57年3月28日である。

[カードI]

《妹》

①(Per.)5"△ こうもり。(Inq.)手(d₃)、羽(D₂)、尾(d₆)。(どんな?)黒いこうもり。W FC'± A P

②(Per.)△ きつね。(Inq.)目(S)、まゆ毛(S)、耳(D₅)、ここ顔の輪郭。(どんな?)怖いきつね。60" W,S F± Ad

《姉》

①(Per.)15"△ 魔法使いが飛んでて手を掲げている。(魔法使いの顔にしては可笑しい。)帽子を被って

いるんだ。(Inq.)これ(d₅)もこっとして帽子を被っている。

W M± (H),Cg

②(Per.)ハ プリマが背中合わせに踊っている。(Inq.)足。これプリマのスカート。手挙げているから。2人が手を挙げている。

W M干 H,Cg

③(Per.)ハ 兎。怖い兎で牙(S)をむいている兎。(Inq.)耳(D₅)。これほった(d₂)。2'

W FM± Ad

《母》

①(Per.)5"ハ 鷺。(Inq.)ここ頭(d₄)、ここ羽(d₁)。(どんな?)中くらの鷺、飛んでいこうとしている。

D FM± A

②(Per.)ハ 蛙。(Inq.)ここ目(d₅)、手(d₂)、顔、身体(D₆)、お尻(D₄)、足(d₆)。可愛い蛙。

D F± A

③(Per.)鼠。(Inq.)これ顔(d₄)、身体、ここまで入る。45"

dr F± A

〔カードII〕

《妹》

①(Per.)7"◎V 蛾。(Inq.)ここ触角、赤い点々がいろんな模様。(どんな?)気色が悪い。いかにも毒蛾っていうかんじ。

W Fc± A

②(Per.)V ムササビ。(Inq.)これ手(d₂)、爪、これ頭、後足はこれ(D₂)、拡げている。マントはこの黒いところ(D₃)。

W FM± A

③(Per.)V マントを着た男の人。(Inq.)これ足(D₂)、これ黒いマント(D₃)、この(D₁)赤いのは帽子。赤い長靴(D₂)をはいている。ここは手(d₂)。1'10"

W FC± H,Cg

《姉》

①(Per.)20"V 暗闇の中を飛行機が飛んでいる。(Inq.)全体でそう見えた。

W,S Fm±,K Tr

②(Per.)V カラスがカモメを背中に乗せて飛んでいる。(Inq.)大きいカラス(D₃)、カモメ(S)を背中に乗せて仲良く飛んでいる。

W,S FM± A

③(Per.)◎ハ 泣いた赤鬼。泣いた優しい方の赤鬼。いやに鼻(S)が大きい。(Inq.)これ角(D₂)、これ目(S)、優しいかんじ。これ顔。

W,S M+ (Hd)

④(Per.)ハ 鶏が2匹外向いて歩いてる。(Inq.)これ鶏冠、これ嘴、羽を拡げて、トットトットと歩いている。

1'30"

dr FM+ A

《母》

①(Per.)10"ハ ゴキブリの尻(D₁)。(Inq.)きちゃんはいかんじ。

D F干 Ad

②(Per.)ハ 蝙蝠。(Inq.)黒いとこ全部。蝙蝠が羽を拡げている。(どんな?)こんな恰好(動作で示す)。

W FM± A

③(Per.)ハ 葉っぱ(植物の)。(Inq.)ここ(d₁)除いて全部。雪の下。葉っぱの形がツブキみたい。

W F± Pl

④(Per.)ハ ジャンボ飛行機。(Inq.)②と同じ場所。こんなに大きいから。

W F± Tr

⑤(Per.)ハ 蝶々。(Inq.)上の部分除く。なんとかアゲハというアゲハか蝶々。

W F± A

⑥(Per.)ハ 手と手で語り合っている。(Inq.)手話で喋っているかんじ。唾(dd)を飛ばしながら話している。激論している。

W,dd M± H

⑦(Per.)ハ 動物の断面。(Inq.)このスジスジがスライスしたときのに似ている。黒いところのみ(D₃)。

W Fc± (A) P

⑧(Per.)ハ 動物をスライスして押したやつ。(Inq.)⑦と同じ場所。(どんな動物?)蚤かな?標本を作るときのやつ。小さい動物。顕微鏡で見たときのかんじ。

W F干(A)

⑨(Per.)ハ 熊の顔。(Inq.)熊、これ熊の足(d₂, d₃)。これ手。赤いとこぬいて全部。熊がのしのし歩いている。

W FM± A P

⑩(Per.)ハ 犬の顔、耳、ミルクを吸っている。(Inq.)犬の耳はここ。ここ足。ミルク吸っている。小犬みたい。涎。2'20"

W,dd FM± A P

〔カードIII〕

《妹》

①(Per.)20"ハ 向き合っている人。(Inq.)これ頭(d₂)、これ靴(d₁)、胴体(D₆)。(どんな人?)足(D₅)の一本しかない人。

W M± H P

②(Per.)V 蠅。(Inq.)これ手(D₃)、目(D₃)、羽のついていない蠅。ここが模様(D₁)、これ胴体、これは蠅のヒゲ。(どんな蠅?)リボンのついた蠅。60"W,S F干 Ad

《姉》

①(Per.)10"ハ 鳥人が向い合って踊っている。花籠なんか持って。カーニバルだから花が舞っている。(Inq.)これ鳥人。1人、2人、向い合っている。下は花籠(D₃)。

W M± (H),Obj P

② (Per.)△ 女の子が笑っている。(Inq.)全体で。
これホッペ、これ口、これリボン。

W,S M± Hd,Obj

③ (Per.)△ 大きい猫が笑っている。(Inq.)全体で
そう見えた。

W,S FM± Ad

④ (Per.)▽ 蠅の怪人みたいなのが手を挙げて
笑っている。蝶ネクタイをしている。(Inq.)これ顔
(D₃), これ目, これが挙げた手(D₅)。笑っている。

W M± (H), Obj

⑤ (Per.)△ 虎猫(D₃)。(Inq.)シマシマが虎猫の
シマシマ。1'50"

D Fc± A

〈母〉

① (Per.)10" △ 土人。(Inq.)この人とこの人2
人。これオッパイ。尻, 足(D₅), 頭(d₂), 関節。2
人で引っぱり合っこしている。なんかついているよ
うにも見える。着物は着てなくて, 裸。喉の後にコブ
が見える。スマートな土人。

W M± H P

② (Per.)△ 骨盤(D₃)。(Inq.)恰好から。解剖図
ではないかな?

D F± At

③ (Per.)△ 蝶々(D₁)。(Inq.)羽が2つあって,
触角, 真中のとこ。形から。

D F± A P

④ (Per.)▽ トンボ。(Inq.)これ目(D₄), これ前
足(D₅), こっち身体。

W,S F± A

⑤ (Per.)▽ カマキリ。(Inq.)④のトンボと同じと
こで, カマキリにも見える。あとは同じ。55"

W,S F± A

〔カードIV〕

〈妹〉

① (Per.)20"▽ 火のともっているランプ。(Inq.)
胴体, 引っかけるとこ(d₄), 傘(D₃)。これ火(d₁),
これ全部でランプ。

W mF Fire,Obj

② (Per.)△ 木に凭れかかっている秃鷹。(Inq.)頭
(d₁), 嘴, 足(D₃), 胴体, これ木(D₄)。2匹いる。

W FM± A,Pl

③ (Per.)△ なんかの顔。虫の顔。気色の悪い甲虫。
(Inq.)前から見ている。これ目(S), これ口(D₁)。
1'30"

W F± Ad

〈姉〉

① (Per.)10"△ 犬が外向いて2匹で吠えている
(D₂)。(Inq.)鼻, 口。

D FM± A

② (Per.)△ 鬱蒼とした木。下に茸(dd)が生えて
いる。(Inq.)全体に鬱蒼としている。

W,dd F± Pl

③ (Per.)▽ 年とったオバさんたちが世間話をし
ている。あんまりいい話ではない。(Inq.)これがオバ
さんの口, 頭(D₃)がモッコとしているのでオバさん。

W M± H

④ (Per.)△ 大きな男の人が破れた靴をはいてい
る。(Inq.)靴(D₃)破れている。2' W M± H

〈母〉

① (Per.)5" △ 追ってくるジャイアント。(Inq.)
熊, 追ってくる。サル(?)ゴリラ(?), これ頭(d₂),
これ手(d₁), これ大きな足(D₃)。大地を踏んでのっ
し, のっしと歩いてくる。

W M± H

② (Per.)▽ 角。(Inq.)角(d₄)と羽(D₃)。恐竜
みたいにみえる。

W F± (A)

③ (Per.)▽ 頭(d₃)の毛を靡かせて女の人(D₂)
が山の頂にひっかかっている。その女の人のかんじは
天使。(Inq.)木があって, これ(D₄)も入る。この木
に女の人がくっついている。1'25" W M± H

〔カードV〕

〈妹〉

① (Per.)5"△ コウモリ。(Inq.)これ頭(d₃),
これ足(d₁), これ羽(D₁)。(どんな?)羽の下った黒
いコウモリ。

W F+,Fm A P

② (Per.)▽ 蝶々。(Inq.)これ触角(d₁), これと
これは羽(D₁), ここ羽の切れ目(d₃)。

W F± A P

③ (Per.)△ 靴。(Inq.)これ腫(d₂), ここ(D₁)
は入れるところ。ハイヒール。30" D F± Obj

〈姉〉

① (Per.)5" 蝙蝠。(Inq.)全体で。頭(d₃), 羽
(D₁)。(どんな?)飛んでいる。 W FM± A P

② (Per.)△ 手と足を伸ばして柔軟体操をしてい
る。(Inq.)これ足。これ手(d₂)。 dr M± H

③ (Per.)△ 熊の鼻の穴とその下の口。(Inq.)こう
なるとこ鼻の穴, ここが口。 dr,S F± Ad

④ (Per.)▽ 蝙蝠を後から口の尖った白い鳥が
追っかけてくる。(Inq.)こっちが蝙蝠でしょ。この白
い空間が鳥で追っかけてきている。

W,S FM± A P

⑤ (Per.)▽ 猫が笑って上げた口。(Inq.)これはチ
ニア猫が笑っている。口だけしかない。1'30"

W FM± A

〈母〉

①(Per.) 5" △ 羽のある跳ね兎。(Inq.)耳(d₃), 手, 羽(D₁)がある動物。メルヘンの世界。ここに足(d₁)がある。 W FM± (A) P

②(Per.)△ 頭をつけて体操している。(Inq.)頭と足(d₂)。馬みたい。 dr FM± A

③(Per.) ∨ 蝙蝠。陰気なかんじ。明かるくない。大空を飛んでいく。羽ばたいている。(Inq.)頭(d₁), 触角, 羽拡げて, ここ足(d₃)。大蝙蝠。1'15" W FM± A P

[カードVI]

《妹》

①(Per.) 5" △ キツネの毛皮。(Inq.)ヒゲ, 口, これ耳, これまわりの毛(D₂), これ手, 足。(表?裏?)表で毛の生えている方。 W Fc± Aobj P

②(Per.)∨ 蘭の花。(Inq.)これ茎(D₂), ここ花片(D₁), これめしべ(d₄), ポンポンと周りから出ているのおしべ(dd), 真黒の蘭。70" W,dd FC'± PI

《姉》

①(Per.) 5" △ ヒゲの生えたネッシーが泳いでいる(D₃)。(Inq.)ヒゲネッシーが泳いでいる。 D FM± A

②(Per.)△ 郵便局の帽子を被ったヒゲの長いおじさんが外向いている(D₁)。(Inq.)これ帽子, これおじさんの顔, ヒゲ。 W M± A,Cg

③(Per.)△ 鼻が天狗みたいな人が口開けて文句言ってる(D₁)。(Inq.)これ口, 文句言ってる。ナイロン脚。 W M± (H)

④(Per.)∨ イグアナが向い合っている。(Inq.)この白いとこイグアナの横顔。 S FM± Ad

⑤(Per.)∨ 兎。(Inq.)この白い所, これヒゲ, これ口。横顔。 S F± Ad

⑥(Per.)∨ 手を挙げて, マントを拡げている。角を生やしている(dd)。(Inq.)中の黒いところ。これ角(dd)。2'40" dr M± (H)

《母》

①(Per.) 5" △ ヒゲ羊さん。(Inq.)前ヒゲ, 横ヒゲ, 足(d₂)。羊毛のよう。肥えたやつ。羊のおじさんで毛のとれそうなやつ。 W Fc± A

②(Per.)△ 胞子(植物)。(Inq.)形から。春にタンポポの上の方など飛んでいく胞子。生命力が飛んでいく。50" W F±,m PI

[カードVII]

《妹》

①(Per.) 25"△ 兎。(Inq.)耳(d₂), 手, 顔(D₃), これ下半身。(どんな?)今にもちぎれそうな兎。 W F± A

②(Per.)∨ 女の子2人。(Inq.)これ髪の毛(D₁), これ鼻, これ手, これ足(D₃), これスカート。(どんな女の子?)髪の毛が変な形。 W F± H

③(Per.)△ 牛(鹿)の角。(Inq.)全部が角でこっから下は頭。(どうして?)こういう形から。60" W F± Ad

《姉》

①(Per.) 8"△ ポニーテールが逆立った女の子が向い合って踊っている。(Inq.)ポニーテール(d₂)の女の子。 W M± H

②(Per.)△ ビーターバンのウエンディが向い合って鏡を見ているのを側面から映した。(Inq.)ポニーテールの女の子と同じとこ。 W M± (H)

③(Per.)△ 犬が上目使いに下を向いている(D₂)。(Inq.)これ耳, 目, 鼻, 口。 D FM± Ad

④(Per.)△ 豚が外向きに目をつぶって寝ている(D₁)。(Inq.)口, 目, 鼻……。 D FM± A

⑤(Per.)△ 人が向い合っている。白いとこ(S)。(Inq.)ここの白いとこ, 口, 鼻, 頭。2'30" S FM± Hd

《母》

①(Per.) 5" △ 何かが飛んでるかんじ。飛んでいるのはポニーテールのお嬢さん(兎さん)。ポニーテール, 2人で何か楽しそうに話し合っている。アカンペーをしているようなかんじ, 明るいかんじ。(Inq.)2人で飛んでる。目(S), 口, これポニーテール(d₂), 顔(D₃), 身体(D₂), 手。 W M± H

②(Per.)△ 白目むいた狼(D₂+D₁)。(Inq.)目(S), 耳, 口, 身体, 歯(dd)。 D FM± A

③(Per.)△ スパンク(熊風)(D₁)。下むいてる。うけ口。(Inq.)耳, 口, 餌, 下向いてる。 D FM± A

④(Per.)∨ 蛙を踏んづけてビッキーになったやつ。マタマタ蛙。(Inq.)マタマタ。黒いとこ色が薄いから踏んづけられたやつ。 W Fc± A

⑤(Per.)∨ 犬(ワンコ)が上に向かって飛び上っている。(Inq.)上に餌, 目, 尻尾, 長い可愛いワンコ(犬)。1'55" W FM± A,Food

[カードVIII]

①(Per.) 5"△ 恐竜の骨。(Inq.)頭の骨, これ先っちょ, ここから下が顔んとこ (D₄)。顔半分。

W F± At

②(Per.)▽ スタンド。(Inq.)ピンクのとこ (D₂) 傘。(ピンクの?) ウン。この青いとこ電球 (D₄)。ここから下(灰色)(D₃)は棒が繋がっている。これ飾り。

W F± Obj

③(Per.)△ 冠。(Inq.)これてっぺん (D₃)。これが(D₁)周りの丸いとこ。これが(D₂)頭にボンと乗っけてるとこ。

W F± Obj

④(Per.)△ 木に登っているカワウソ(イタチ?)。(Inq.)イタチ (D₁), こっちは木。

W FM± A,PI P

《姉》

①(Per.) 15"△ 豹が上に登っていく (D₁)。

D FM± A P

②(Per.)△ 象が外向いている (D₇)。(Inq.)頭の中でひっくり返した。

D FM± Ad

③(Per.)△ エンゼルフィッシュが2匹(D₄)。(Inq.)これ目, これシマシマ, 向き合っている。

D,S Fc± A

④(Per.)△ エイが1匹いる (D₃)。(Inq.)これ目, 先がヒラヒラして三角の形しているから。

D,S F± A

⑤(Per.)△ 靴が2足 (dd)。(Inq.)形から。

dd F± Cg

⑥(Per.)△ ヒドラみたいな怪物が手を上げている。(Inq.)④と同じところ。白いとこ目 (S), 手がこれ。

D,S FM± A

⑦(Per.)△ パレリーナがトウシューズで立っている。(Inq.)これ足, これがトウシューズ。2'

dr,S M± H

《母》

①(Per.) 5" △ 熊 (D₁)。小ぶりの4足で2匹。(Inq.)頭, 足, 後足。(どんな?) 割と小さい。

D F± A P

②(Per.)△ 蝶々。(Inq.)ピンクのとこ(D₂), 蝶々の形。

D F± A

③(Per.)▽ 目がある (S)。先の尖った口。これ手こ昆布 (D₄)。(Inq.)目が小さいから鯨。海の動物。昆布は切って使う。

D,S F± A,PI

④(Per.)▽ 全体としてはお花が咲いている。下は葉っぱ (D₁)。カトレアの花 (D₂)。花片の枯れたのが

たれ下っている。(Inq.)これ葉っぱ (D₁)これ花。色と形から。

W FC±,Fm PI

[カードIX]

《妹》

①(Per.) 20" ▽ 壁に掛っている熊の首 (D₁)。(Inq.)口, 鼻, 目, 耳。ここ壁で2つに分かれている。ピンクのとこは天井。ピンクのとこ血がでているかなと思ったけど気色悪い。(どんな熊?) 豚みたいな熊。1'10"

W mF Blood,(Ad)

《姉》

①(Per.) 10"△ 魔法使いが指さし合って笑っている (D₂)。(Inq.)こっちの手で相手をさして, こっちの手では口を押えて笑っている。

D M± (H)

②(Per.)△ 大きな豚が2匹外を向いている (D₁)。(Inq.)鼻, 口, 緑豚。

D FM±,FC A

③(Per.)▽ 象。(Inq.)このピンクのとこ (D₅), 顔と鼻。

④(Per.)△ 瓢箪 (D,S)。(Inq.)形から, 瓢箪の形をしている。

D,S F± PI

⑤(Per.)▽ アメーバー(小さい)。(Inq.)目があって, そんな形。

dr F± A

⑥(Per.)▽ 顎のしゃくれた悪魔が2人で笑って向き合っている。(Inq.)ここ (d₃)顎の形から。

d M± Hd

⑦(Per.)△ 虎が下向いて駆け降りている。(Inq.)この白いとこ。足, 耳, 駆け降りている。

S FM± A

⑧(Per.)△ イチゴミルクの欠永 (D₃)。(Inq.)ピンクのとこ色が似ている。

D CF Food

⑨(Per.)△ 角のでている可愛い鬼。(Inq.)ここの白いとこ, 角が尖っている。

S F± (Hd)

⑩(Per.)△ 葉っぱ。(Inq.)ここのところ青(緑)と白の半々ずつの葉っぱ

dr FC± PI

⑪(Per.)△ 竜の落とし子。(Inq.)白いとこ, 形から。

S F± A

⑫(Per.)△ 揉上のある人の顔。(Inq.)白いとこ形が似ている。3'

S F± Hd

《母》

①(Per.) 25"△ 見えない……頭の先の呻ったビエロが何か吹いている。(Inq.)頭, 鼻, ビエロはここ。ここ脹らんでいるのでビエロのズボン。これ (d₁) 男鹿の角笛。これ手, これ笛, 足。

D M± H,Aobj,Cg

②(Per.)△ 小熊が笛吹いている。(Inq.)下の緑の
とこ(D₁)。これ尻尾、これ耳、これ手で楽器をかかえて
いる。手は薄くなっているところ。

D FM±,Fc A,Obj

③(Per.)△ 一番下は根っ子で球根。(Inq.)ピンク
のとこ4つ球根がある(D₆)。 D F± Pl

④(Per.)▽ 象の着ているマント。(Inq.)象の耳
(D₆)、マントを着ている(D₁)。これは足(D₂)。童
話の中の象。 W F± A,Cg

⑤(Per.)▽ おしべかめしべ。(Inq.)全体がそうい
うかんじ。性生殖器がここ。 W F± Sex

⑥(Per.)▽ 蟻が何か掘っている。殻から生まれ
たて。(Inq.)橙色のとこ蟻(D₂)。生まれたての蟻。下
が殻(D₆)。 W FM± A,Obj

⑦(Per.)△ 小鳥もいる。(Inq.)チーコ(文鳥)、
足、蟻と同じ場所(D₂)。足があって留っているとこ
んな恰好している。2'40" D FM± A
〔カードX〕

《妹》

①(Per.)15"△ バイキン(D₃)。(Inq.)2匹いる。
(どんな?)普通の! D F± A

②(Per.)△ 蟹(D₆)。(Inq.)足がでている。目が
1個しかない。1個はどこかで取れてしまった。
D F± A

③(Per.)△ カマキリの顔(D₅)。(Inq.)顔、手。
D F± A

④(Per.)△ 狼の顔(D₁)。(Inq.)これ目(S)、こ
れ口、耳。 D,S F± Ad P

⑤(Per.)△ 蜂鳥(D₁₀)。(Inq.)目玉がある。木に
留っているように見えて、噛みたいに尖ってる。カメ
レオンみたいにもみえる。手一本でつかまっている。
D FM± A

⑥(Per.)△ 男の人の顔。(Inq.)全体で。茶色の
とこ(D₃)、髪の毛。ピンクのとこ(D₉)も髪の毛(赤毛)、
さっきのバイキンのとこ(D₃)頭。緑のとこヒゲ(D₅)、
目は蜂鳥のところ(D₁₀)。鼻(D₇)、青いのマユ毛(D₅)、
顔の輪郭、口の表のヒゲ(D₈)、口、ヒゲ。
W F± Hd

《姉》

①(Per.)5"△ 兎(D13)。(Inq.)耳、太った兎。
D F± A

②(Per.)△ 頭から目の生えた黴菌(D₃)。(Inq.)

目、耳、怖い黴菌で足が3本、手が一本ある。木にし
がみついている。 D FM± A,Pl

③(Per.)△ 竜の落とし子がオジさんにしがみつ
いている(D₁)。(Inq.)竜の落とし子、手を挙げてい
る。 D FM± A

④(Per.)△ 牛(D₆)。(Inq.)牛の角、牛の顔、足、
色からみて牛。 D FC± A

⑤(Per.)△ 女の人が泣いている。泣きながら笛を
吹いている(D₉)。(Inq.)女の人、これ笛、色が赤と
紫だから泣いている。 D M±,Csym H,Obj

⑥(Per.)△ 着飾った兎(D₅)。(Inq.)これ兎(孔
雀にも見える)。顔で着飾っている。
D F± Ad

⑦(Per.)△ ジャガイモ(D₁)。(Inq.)色から。
D FC± Pl

⑧(Per.)△ カメレオンが2匹木にしがみついて
いる(D₁₀)。(Inq.)しがみついている。目がカメレ
オンに似ている。 D FM± A

⑨(Per.)△ 眼鏡をかけた人が笑っている。(Inq.)
この白いとこ周りの形で。 dr,S FM- Hd

⑩(Per.)△ 口を開けて愉快そうに笑っている人
が2人。(Inq.)ポカンと口を開けて笑っている。
S FM± Hd

⑪(Per.)△ マンモスが2匹。(Inq.)白いとこの形
から。 S F+ Ad

⑫(Per.)△ 蛙が一匹。(Inq.)白いとこの形から。
S F± Ad

⑬(Per.)△ 髪の毛の長い人が2人いて上向いて
いる。(Inq.)白いとこの形。 S FM± Hd

⑭(Per.)△ 桑型虫。(Inq.)⑫と同じところを少し
広げた場所。 S F± Ad

⑮(Per.)△ 頭の大きい女の人が2人。(Inq.)こ
この白いとこの形。 S F± Hd

⑯(Per.)△ 双児のブーちゃんが2人向い合っ
て話している。(Inq.)⑩と同じ場所。 S FM± Ad

⑰(Per.)△ 男の人が外向いて大口開けて笑っ
ている。(Inq.)ここの形。 S FM± Hd

⑱(Per.)△ 人の口。(Inq.)白いとこの形。
S F± Hd

⑲(Per.)△ 下を向いて水の中を覗き込んでいる
髪の毛の長い人が2人いる。(Inq.)ピンクのとこの縁。
de FM± Hd

⑳(Per.)△ 流し目で外を向いて手を広げている

人。(Inq.) ここ (=③)。 D M 干 H

②(Per.)∧ 緑虫 (D₁₃)。 (Inq.) 色が緑。

D FC± A

②②(Per.)∨ マントヒヒ。(Inq.) 全体で、ここ目、鼻、口、ここ模様。 W,S F± Ad

②③(Per.)∨ パルタン星人がニコッと笑っている。(Inq.) ②と同じところ、目と鼻。

W,S FM± (Hd)

②④(Per.)∨ 竜の落とし子。(Inq.) 白いところの形。

S F 干 A

②⑤(Per.)∨ 蛙が2匹。(Inq.) ④の牛と同じところ。ここがお腹。6'

D F± A

〈母〉

①(Per.) 5"∧ いろいろ蠢いている……蜘蛛 (D₁)。 (Inq.) 虫が沢山、雄蜘蛛。 D FM± A P

②(Per.)∧ 小動物が蠢いている。アメーバー (D₆, D₁₃)。 奇麗。(Inq.) こんな恰好をしている。 D FM± A

③(Per.)∨ 蚊 (D₁₂)。 (Inq.) 小さい羽2つ、ブーンと飛んでいる。 D FM± A

④(Per.)∧ 孔雀 (D₅)。 (Inq.) 羽拡げて、飛んできている。2匹。頭、足。 D FM± A

⑤(Per.)∧ 目の大きい足のある動物 (D₁₀)。 (Inq.) 目、足、口、頭、奇怪な動物。 D F± A

⑥(Per.)∧ 喰われているような動物 (D₆+D₁₅)。 (Inq.) これに (D₁₅) これが (D₆) 喰われている。

D FM± A

⑦(Per.)∧ 虫の集団。空の開けたかんじ。(Inq.) 印象、ひっついてなくて、空間。

W,S F± A,Space

⑧(Per.)∨ 軟体動物。芋虫の大きい (D₉)。 (Inq.) ムニョムニョとこうなってる。

D FM± A

⑨(Per.)∨ 少女 (D₉)。 (Inq.) これが頭布、手があって、お尻があって、身体を服でくるんでいる。

D M± H

⑩(Per.)∨ お婆さん。(Inq.) 見方によってはお婆さん。 D F± H

⑪(Per.)∨ 羽を拡げて飛んでいる (D₅)。 (Inq.) …… D FM± A

⑫(Per.)∨ 遠くからスーパーマンがやってくる (D₁₂) (Inq.) 鉄腕アトムもこんなかんじ。

D M± H

⑬(Per.)∨ 春が飛んでくる。春だから浮かれている。啓蟄。春だ春だと手をつないでいる。(Inq.) みんな浮かれて踊っている。4' W FM± A

III. 母子それぞれのロ・テスト反応からみた母子差とイメージの母子相互作用

A. サイコグラムからみた母子差と共通性

Fig. 2 に母子のサイコグラムを示した。また、Table 2 に母子の量的比率を示してある。上段が妹、下段が姉、()内が母のものである。Fig. 2

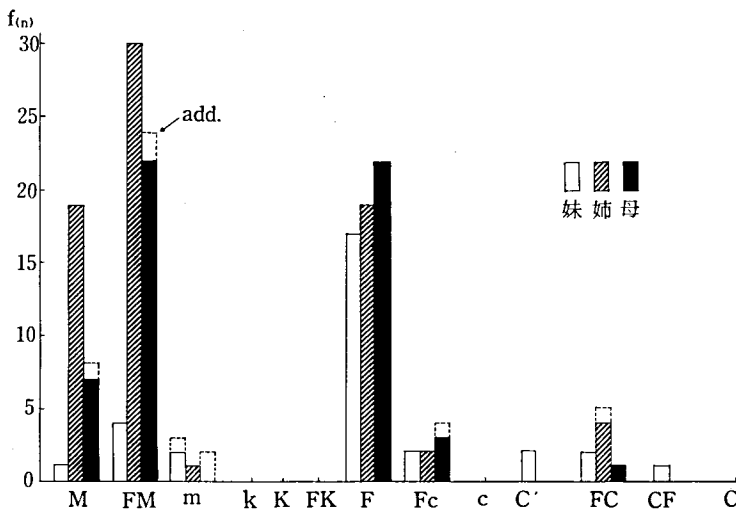


Fig. 2 母子のサイコグラム

Table 2 母子のスコアのまとめ

Summary Scoring Table

R(total response)	30 76 (55)	W : D	24 6 23 : 26 (28 25)	FC + CF + C : Fc + c + C'	2 4 5 : 2 (1 3.5)	
Rej(Rej/Fail)	0 0 (0)	W %	80 33 (51)	FM : M	4 1 30 : 19 (23 7.5)	
TT(total time)	670 1410 (1045)	D d %	0 14 (4)	F % / ΣF %	57 93 25 / 99 (40 100)	
RT(Av.)	22.0 [*] 18.6 (19.0)	S %	0 21 (0)	F+ % / ΣF+ % / R+ %	88 92 87 42 / 63 / 62 (82 89 89)	
R ₁ T(Av.)	12.7 [*] 10.3 (8.0)	W : M	24 1 23 : 19 (28 7.5)	A %	60 50 (73)	
R ₁ T(Av. N. C)	12.0 [*] 8.6 (5.0)	E.B	ΣC : M	1 1 2.25 : 19 (0.5 7.5)	At%	3 0 (2)
R ₁ T(Av. C. C)	13.4 [*] 12.0 (11.0)		Fc + c + C' : FM + m	4 6.5 2 : 31 (3.5 23)	P(%)	7 (23) 4 (5%) (9 (16))
Most Delayed Card & Time	VII 25 [*] II 20 (IX 25)		VIII + IX + X / R	40 58 % (44)	Content Range	7 6 (6)
Most Disliked Card	III II (II)	FC : CF + C	2 0 4.5 : 1 (1 0)	Determinant Range	6 7 (5)	

* 上段 妹, 下段 姉, () 内は母のスコアである。

からみてとれるのは、まず①姉と母は極端な内向型であるということである。これに対して妹は両向型である。経験タイプからみるならば、姉と母はより共通性の高い似たタイプである。次に②MについてもFMについても姉と母はいずれも高い(姉:M=19, FM=30; 母:M=7, FM=22)。この点についても姉と母は共通の傾向をもっている。また、③Fcについては母子3人ともに共通の個数であるが、母が3個(付加反応も加えると4個)とやや多い。筆者が母親に対して発した多少不躱な、どちらの反応が分かりやすかったですか?という問に答えて、母は、「どちらもそれぞれに面白かった。妹のはあっさりしていたし、姉のは小さいのをいろいろみて、一杯あって面白かった。一生懸命探した」と注意深く両者を比較することを避けたように思われる。これは子どもに対するこの母親なりの愛情の深さと質の良さを示していると筆者には思われる。

サイログラムから結論できることは姉と母はより似た傾向を持っているということである。

B. 量的比率からみた母子差と共通性

Table 2 から分かることは、まずなんといっても姉と母の反応数の多さである(姉:R=76; 母:R=55)。特に姉においてこれが著しい。姉の

S%は21%であり、これが姉の反応を多くしている一因をなしている。これは特にカードXにおいて顕著である。姉にはdd反応も多く、S反応もこの傾向をもち、非常に細かい空間を見る傾向がある。これが姉の反応を推測する際の母の側の一大障害となったらしく、母は姉のロールシャッハ反応について、小さいのが一杯あったので一生懸命探したと述べているが、これは母に限らず、筆者にとっても分かりにくい反応であった。S反応は「拒絶性や、頑固さと関係する」¹⁰⁾とされているが、筆者の印象では姉の「あつかいの難かしさ、すぐにブーッとふくれる」という特徴からみて、反抗心と自己主張の発達ではないかと考えられる。次に、②W:Mの比をみると妹は24:1と極端である。W:M比を「知的野心」¹⁰⁾の程度とみるならば、妹のこの知的野心の高さは何に由来するものであろうか?W:Mは母においても28:7.5と高いが妹程極端ではない。筆者がこの母親から聞いたところでは「自分が現在の夫を選んだ理由のひとつは、その知的レベルの高さにあった」ということである。妹は母のこの部分から強く影響を受けて育ったとは考えられないであろうか?妹のFC+CF+C:Fc+c+C'の比率は姉と反対の傾向にあるが、この比率が妹にとって「傷つけられることを恐れるあまり、ひっこみ思案になって

いる¹⁰⁾ことを意味するとするならば、妹の知的なものに対する野心(要求水準の高さ)と相俟って、彼女の意識的(知的な)防衛を予想させるように思われる。実際、妹について母は「過度に他人に気を遣うので内向してしまい、とても疲れているみたいだ」と語っている。ところで、③FM:Mの比率に目を転じると妹=4:1、姉=30:19、母=23:7.5とその傾向は一定である。しかし、これは未成熟のサイン¹⁰⁾というよりも、それぞれの退行能力の良さを示しているように思われる。特に母はA%が73%と非常に高いが、これも「童話の中の動物」「メルヘンの世界」という表現にもうかがえるように質のよい退行能力、したがって、子どもとの共感能力の良さを示唆しているように思われる。

サイコグラムに見られた結論を越えて、ここには、母子3人の様々な関係が推測されたが、ここでそれをまとめると、①姉と母は基本的には似た傾向をもっていること、②しかし、姉は多少母に反抗的な傾向を芽えさせつつあること、③妹は母とあまり似ていないように見えるが(恐らく父に似ているのであろう)しかし、母に知的野心という側面で同一化していること、また妹は対人的に深く傷つき易い傾向をもっており、それ故に人に対して気を遣う傾向をも発達させていること、さらに④母はこの2人の姉妹のそれぞれの特徴・個性を十分に理解しつつ、その内に退行能力(幼児化能力¹¹⁾)を秘めた愛情の深さを示していることなどが結論されよう。

IV. 選択カードからみた家族力動

妹・姉・母のそれぞれについて、most liked card, most disliked card, 父親カード, 母親カード, 自己カード(self card), 姉カード, 妹カードを選択してもらった。その他に新しい試みとして、それぞれ2人の子どもがどのように選択したかを母に推測してもらった。その結果をTable 3にまとめた。各カードについて、どのような選択がなされたかをしめしてある。()内に推測とかいてあるのは、それが実際の選択ではなく母の推測であることを示している。それぞれのカードから得られた情報をコメントしてある。このコメントをまとめてい

く中から、この家族内の力動(家族関係)について考察したい。考察をできるだけイメージ豊かなものにするためにカードの反応内容についても触れる。Table 4に考察に関係したものだけ、各カードの反応内容の見出しを記した。

A. 母と2人の子どもの関係

カードの選択からみても、姉と母は非常に似ているということがもう一度ここで確かめられた。妹に関して母、姉ともに同じく、妹は暗いというイメージをもっている(カードI)。カードIを姉は「こわい兎」としてみている。母は「鷲」「ネズミ」などで見ているだけであるが恐らく悪いイメージをもっているのだろう。このカードに対して「鬱としている」というイメージを表明している。ちなみに、「ネズミ」は「小さいけれども危険な動物」¹²⁾であるとされている。妹本人もこのカードに「黒いコウモリ」「怖い狐」という否定的なイメージをもっている。妹の自己イメージはVカードに表わされているが、概して暗いものが多い。最初のカードにしてさっそく「黒い」という反応が現れたということに注目したい。小沢¹³⁾はC'反応について、濃淡反応cに含めて考えたいとしている。それは子どもの反応においてはC'とcの区別が困難であるという理由による。濃淡反応cを「他人および自身の、愛情欲求の受容と認知を示す」¹⁴⁾ものであるとみるならば、自己の愛情を暗く、鬱としたものとして周りから見られていることは、やりきれない。

さらに、姉も母も自己愛的であり(カードVI・VII)、多少とも自信家であろう。姉が自己カードとして選んだVIIカードには「ポニーテールの女の子」、「ピーターパンのウェンディ」などの陽気なイメージが見られ、また母も「飛んでいるポニーテールの女の子」、「飛びあがっている犬」といった躍動的なイメージをみている。ところが同じこのカードに、妹は「今にもちぎれそうな兎」、「変な髪の毛の女の子」という否定的なイメージをもっているのである。

こういったことから姉は母の肯定的な部分に自己を同一化しているといえるのではなからうか? このような2人(母と姉)の同一性に基づいてのことであろうか、母は姉の好き嫌いについて正確に見抜いているようである(カードII・VII:カードII

Table 3 各カードについての選択者と選択内容

Card No.	誰によって選ばれたか	何カードとして選ばれたか	理由	コメント
I	姉	妹カード	兎に似てる	姉も母も妹を同じイメージ（鬱としている）で見ている
	母	妹カード	鬱としている	
II	姉	disliked card	グロテスク	姉も母もIIカードが嫌い。母は姉も妹もこのカードが嫌いだろう（2人とも自分と同じものを嫌う）と思っている。
	母	disliked card	嫌なかんじ	
	母（推測）*	妹の嫌いなカード		
	母（推測）	姉の嫌いなカード		
III	妹	disliked card	血	妹は姉を嫌いなイメージでみている。母は妹が自分(妹)をこんな風に見ていると思っている。
	妹	姉カード	こんなリボンをつけてる	
	母（推測）	妹の自己カード		
IV	母	父親カード	のっしのっしと私の中に入ってくる	母は夫をつよい男性イメージでみている
V	妹	自己カード	形がととのって、一人でポツンとしている。	妹は自分を一人ぼっちと思っている
VI	母（推測）	妹のみた姉カード		母は妹が姉をこうみていると思っている
VII	姉	liked card	表情がいい	姉は自己愛的である。母は姉が自分(姉)のことを肯定的に判断していると思っている。
	姉	自己カード	ポヤッとしている	
	母	姉カード	なんとなくフワッとしている	
VIII	妹	母親カード	色から	妹は母を明かるいと思っている。母は自己愛的である。妹はそれを見ぬいている。
	母	liked card	明かるい	
	母	自己カード	明かるい	
IX	姉	母親カード	バラエティーがある	姉は母がバラエティーがあると思っている。母は妹の好きカードを姉が妹のようだと判断していると思っている。
	母（推測）	姉の妹カード		
	母（推測）	妹の好きなカード		
X	妹	liked card	面白い	妹・姉ともに父親が好き。母はこのカードを姉が好きだろうと思っている。
	妹	父親カード	男の人だから	
	姉	父親カード	バラエティーがある	
	母（推測）	姉の好きなカード		

*母（推測）とあるのは実際の選択ではなく、恐らく2人の子どもがこう選択したであろうと母が推測したものである。

Table 4

反応内容 (考察に使用したもののみ)*

Card No.	反応した人	反応内容の見出し
I	妹 姉 母	黒いコウモリ・こわいきつね こわい兎 とんでいこうとしている鷲・ネズミ
II	妹 姉 母	毒蛾・黒いマントを着た男 泣いた赤鬼 動物の断面 (スライス)
III	妹 姉 母	足の一本しかない人・リボンのついたハエ 踊っている鳥人・笑っている女の子・笑っている猫 土人・カマキリ・竜の落とし子
IV	妹 姉 母	ハゲタカ・気色の悪い甲虫 吠えている犬・うっそうとした木・年とったオバさん・破れグツの大男 迫ってくるジャイアンツ・角
V	妹 姉 母	黒いコウモリ 白い鳥に追っかけられているコウモリ 陰気なコウモリ
VI	妹 姉 母	キツネの毛皮・ランの花 ヒゲじいさん ヒゲ羊・飛んでいく生命力のある孢子
VII	妹 姉 母	今にもちぎれそうな兎・変な髪の子・牛の角 ポニー・テールの女の子・ピーターバンのウェンディ 飛んでいるポニー・テールの女の子・飛びあがっている犬
VIII	妹 姉 母	恐竜の骨・スタンド・冠 象・エンゼルフィッシュ・ヒドラ・トウシューズで立ってるバレリーナ 小熊・ピンクの蝶・目の小さいクジラ・明かるい花
IX	妹 姉 母	豚みたいな熊の首 笑っている魔法使い・笑いあっている悪魔・駆けてるトラ 生まれたての蟻・チーコ(小鳥)
X	妹 姉 母	男の人の顔 兎・こわいバイキン・泣いている女の子・笑っている人 クモ・くわれている動物・少女・オバアさん

* 必ずしも全て考察に使われているわけではない。

を姉は“泣いた赤鬼”母は“ゴキブリの尻”“蝙蝠”“ツブキの葉”とみている。これは母・姉ともに嫌いなイメージである。一方カードVIIは姉の好きなイメージである)。

しかし、一方妹については事情が異なってくる。母は妹の好き嫌いについては不正確な推測しかできていない。妹はこれが好きだろうという母の推測ははずれた(カードIII)。それは妹の嫌っているカードだった(妹は“足の一本しかない人”、“蠅”などを見ている)。また、妹はこれが嫌いだろうという母の推測もはずれてしまった(カードII)。それは妹ではなく姉の嫌いなカードだったのである(姉はこのカードに“泣いた赤鬼”を見ている)。ここでも母はより姉の事について正確であると思われる。結論をいうと、母も姉も、妹は暗いところがあるので、よりよく理解してあげなければならないと思っている。この思いは母により強いようであるが現実的には成功していない。

B. 母と父と子どもたちとの関係

母は父(夫)に対して男性イメージを強くもっている(カードIV：“迫ってくるジャイアンツ”、“角”)。妹も同様に父に対して男性イメージを強くもっている(カードX：“男の人の顔・ヒゲの生えたオッサン”)。しかし、母とちがって父に対して完全に肯定的である。姉は父にバラエティがある(色々な知識がある)という点を父を認めている(カードX：R=25という多さである)。このカードは姉が好きだろうと母は推測した。その意味では、母が否定的に思っている程には姉は父を嫌いではないし、妹にいたっては父が好きなのである。父親のことにしても、母は姉については、おおよそ正確であるが妹を誤解しているようである。

ところで姉はXカードに“こわいバイキン”、“泣いている女の人”というイメージをみている。したがって、父に対しては“バラエティ”があるという点では認めるが、悪いイメージももっているという非常にアンビバレントな関係にあるように思われる。

C. 妹からみた母と姉

妹は母からも姉からもある側面(暗い側面)については正確に判断されている(カードI)が、自分は“一人ぼっちだ”と思っており(カードV：“黒いコウモリ”)、かろうじて「整っている」という自

己の外へへの肯定によって自己を支えていること、父に対して良い同一化をしていることで耐えている。後に見るように、母も姉も、妹のロールシャッパ・イメージについて同質性(SMC)^{5,6)}が高く(同時に推測率も高い)このことは必ずしも妹にプラスしていない。それは、妹個人に対する母と姉の理解力が、かなり意識的なものであり、家族内力動の中では自然なものとなっていないからではないかと思われる。このことについては後にVで詳しく考察したい。

D. 妹と姉の関係

母は妹が姉をよく思っていると推測しているが(カードVI：母“ヒゲ羊”“飛んでいく生命のある孢子”)、妹は姉のことをあまり好きではない(カードIII：“足の一本しかない人”“蠅”)。また、母は姉が妹のことを好きだと思っている(カードIX：“生まれたての蟻”“チーコ(小鳥)”)が、そうではない(ちなみに、母が良いイメージをもっているカードIXを妹は“豚みたいな熊の首”とみている)。さらに、姉は妹を鬱とした不気味なイメージをもった分りにくい人だと思っている(カードI：“こわい兎”)。以上の事から、母は姉が妹のことをよく理解していると思っているが、実際にはそうではないようである。

E. 姉のことについて

姉のS%の多さは、先にも触れたように、父・母への反抗、自立であると思われる。母は、姉も妹も平等に理解していこうと努力しているが、実際にはそうでないということにも気づいている。むしろ母としては自分が妹については分からない部分を姉が肩代りしてくれることを期待しているが、姉は妹のことをよく分からない不気味なもの(こわい兎)として感じている。しかし、実際の家族関係の中では、姉と妹は父と母を結びつけるカスガイとして機能しているのである。姉は父の知識を認めているという点で(これは母が父と結婚した意識的な動機である)、父に同一化し、無意識的な部分〔ddの多さ(母・姉)、dd的S%の多さ(姉)などに表れた細かさや反応数の多さにあらわれた要求水準の高さ〕では母に同一化している。この点で、姉はより母的であろう。一方、妹ははっきりと父の知識的部分に同一化しており、父親よりである。妹はしかし、母(母親カードVIII)を「恐竜」「スタン

ド」「冠」などというグレート・マザー¹⁴⁾ 的なものと見ているのである。「恐竜」は「恐ろしい力、特にグレート・マザーの否定面であるあらゆるもののみこむ力」とされ、ドラゴンは「時には「王冠」をつけ権威をあらわす」とされている¹²⁾。また、「スタンド」も明るく周りを照らすという肯定的なイメージを孕みつつも、しっかり立っているという、むしろ力強さを表すイメージとして立ち現れているように思われる。これは飾りのついたスタンドなのである。

以上、A～Eをまとめて、極めて単純にこの家族の関係を図式化したのが Fig. 3 である。

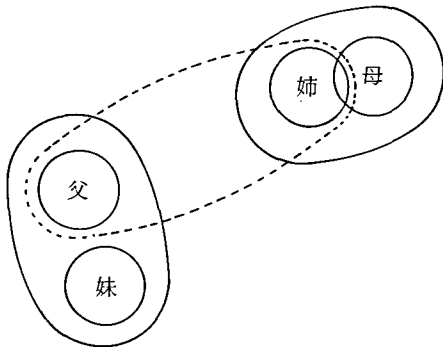


Fig. 3 家族成員の空間的位置と距離¹⁷⁾

- 同一化の強さ
- ⋯ 家族を結びつける機能

V. 母子のロールシャッハ反応の推測率と母子同質性 (SMC)

母→子の推測率について

先にも述べたように、筆者は母親が本人をどれくらい理解しているかをみるために、子どものロ・テスト反応を推測してもらった。推測にいくつかの段階をもうけた (Table 1)。①何もヒントを与えずに自由に推測してもらう段階 (free response の段階)、②反応内容 (何をみたか) のみ教えてそれを説明できるかどうかみる段階 (suggestion の段階)、③反応内容の領域、内容の細かい説明をしてそれが理解できるかどうかみる段階 (explanation の段階)。①→③に進むにつれて

母の推測能力が低いことを意味する。結果を分かる (+) と分からない (-) に大別し、それぞれをまた3段階に分けて評定した。全体で6段階の評価になる (Fig.4)。妹・姉に対するそれぞれの結果を Table 5 に示した。数値はそれぞれの段階で - (±, -, =) に評定されたもののパーセンテージである。最終段階でもどうしても見えないものが、妹については1個のみ (3%) であったが、姉については17個 (22%) も残った。妹の1個はカマキリの顔を母が分かりにくかったもの。妹についてはほとんど理解することができた。ところが、姉については17個も分からないものが残ってしまったのはどうしてなのだろうか? この17個のうち空間領域の使われたものが11個もあった。しかもこの空間領域は dd (微少部分反応) を多く含むものであり、筆者自身客観的にみても分かりにくいものであった。残りの6個については、「年とったオバアさん」「笑った猫」「外向きの象」「笑い合っている悪魔」「外を向いている人」「蛙」であった。先にも述べたように、このような空間反応は姉の反抗的な態度や、自立心を反映しているのではないかと思われる。

ところで、子どもの反応を推測するというこの一連の作業について母親は「妹のはあっさりしていた。姉のは小さいのを色々見ていっぱいあって面白かった」という感想を述べたが、これは妹・姉に対する推測率にも合致している。母は妹のロールシャッハ反応の方が推測し易かったのである。

母子同質性について

筆者は先の報告^{5, 6)} で、もともとの母子のロールシャッハ反応がどれくらい似ているのか、つまり母子の同質性はどれくらいなのかを指標化し、SMC (Similarity of Rorschach Responses between Mother and Child) と名づけた。Table 6 に SMC

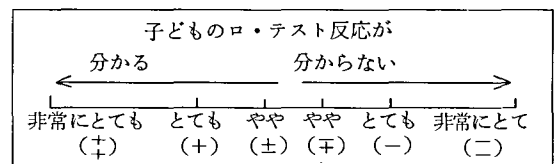


Fig. 4 推測能力の6段階評価

Table 5 母子間の各段階における推測率

	段 階	妹への推測率	姉への推測率
i)	free response (推 測)	90*	99
ii)	suggestion (暗示・ヒント)	23	41
iii)	explanation (説 明)	3	22
	R (反応数)	(30)	(76)

*単位は%・数値は各段階で-に評定されたものである。

Table 6 母子同質性指標(SMC)の得点スケール

ポイント	ス ケ ール	
5	完全に同じ反応である。	e.g. 母:子:蝶々が飛んでいる。(カードI)
4	一致していないが似ている。 (例えば2つとも平凡反応である)	e.g. 母:蝶々,子:蛾(カードIII) 母:バイオリン,子: 三味線(カードVI) 母:蠅の顔,子:カマ キリの顔(カードIII)
3	部分的に一致しており、一致している部分が大きい。	e.g. 母:女の子が2人で話している。 子:ポニーテールの女の子が岩の上に乗っている。 (カードVII)
2	部分的に一致しているが、いまだ一致していない部分が大きい。	e.g. 母:鳥が話し合っている。その間を蝶々が飛んでいる。 子:2人の人間が太鼓を叩いている。その間を蝶々が飛んでいる。 (カードIII)
1	まったく違う反応である。	e.g. 母:鬼が笑っている。 子:象が鼻をくっつけている。 (カードII)
0	Rejection (Failure)	

算出のためのスコアリングのスケールを示した。母子の反応が完全に同じ反応であった場合を5ポイント、全く似ていない場合を1ポイント、どちらかに拒絶(Rejection or Failure)があった場合0ポイントをスコアする。各反応のポイントを合計して反応数(R)で割ったものがSMCである。

$$SMC = \frac{\text{他者の各反応のポイント合計 (Total Point)}}{\text{他者の全反応数 (R)}} \dots\dots(1)$$

ところでこのSMCには2つの方向が考えられる。ひとつは母親が子どもの反応にどれくらい似ているか、したがって母親が子どもの反応の中にどれくらい似た反応を見い出せるかの方向であり、これはSMC(M→C)と表わせる。もうひとつは子どもが母親の反応にどれくらい似ているか、したがって子どもが母親の反応の中にどれくらい似た反応を見い出せるかの方向である。これはSMC(C→M)と表わせる。上図の(1)の公式をSMC(M→C)とSMC(C→M)で書きかえると次の(2)、(3)の公式で表わせる。

$$SMC(M \rightarrow C) = \frac{\text{子どもの反応の各反応のポイント合計 (TP)}}{\text{子どもの全反応数 (CR)}} \dots\dots(2)$$

$$SMC(C \rightarrow M) = \frac{\text{母親の反応の各反応のポイント合計 (TP)}}{\text{母親の全反応数 (MR)}} \dots\dots(3)$$

(2)と(3)の違いは具体的な算出方法の過程でより明らかになるだろう。例えばSMC(M→C)の算出の過程をみよう。妹(子ども)はカードIに①こうもり②きつねという2つの反応をイメージしている。この2つのそれぞれに対応するイメージが母親自身のカードIの反応①鷲②蛙③ネズミのイメージの中に似たものがどれくらいあるかを探す。すると、①こうもりについては、Table 6のスケールによれば全く似ていないので1ポイントとスコアされるのである。このような手続を②きつねにも繰り返し、②=1ポイントとなる。したがってカードIについてのポイント合計は2点である。カードII以下についても同様である。つまり、SMC(M→C)においては、同一カードで、母が子どもの反応の中にどれくらい似たイメージを推測しやすい素地があるのかという“みつけやすさ”が測定されていると考えられる。逆にSMC(C→M)の場合は子どもが母親のイメージを推測するとして、母のイメージの中にどれくらい自分のイメージに似たイメージを見つけ出せるかという“みつけやすさ”を測定している。

このような考え方の根本には、人は自分のイメージ世界を基準にして他者のイメージ世界を推測していくのだという筆者なりの実感がある。したがって、自己の中に他者と似たイメージ世界が多ければ多いほど他者を理解しやすくなると思われる。フロム¹⁵⁾は、次のように述べて他者理解(分析)が結局は自己理解(分析)に他ならないことを喝破した。

…私は私自身のうちに(ユダヤ人虐殺の)アイヒマンを見いだします。(中略)分析されることは私にとっては、私のうちなるあらゆる非合理性に対して私自身を開かれたものにするということを意味しています。そのときにのみ、私は私の患者を理解することができるのです。…

われわれは、フロムのいうように自己のイメージ世界を基準にして他者のイメージ世界を理解するのであろう。したがって、よりよく他者を理解するためには、どれだけ多くの他者を自らの中にとり入れることができたかが問われる。成瀬¹⁶⁾は「自己を相対化するためにはより多くの、自分と異質の他者を知らなければならない」とのべているが、先述のような観点から筆者にはうなづける見解である。

このような観点からみるならば、他者世界の推測率のよさ(SMCの高さ)は、i)自己のイメージ世界>他者のイメージ世界、ii)自己のイメージ世界=他者のイメージ世界、iii)自己のイメージ世界<他者のイメージ世界の順に低くなると思われる。他者の世界を理解しやすい条件をロ・テスト、事態に限っていうならば、次のような条件が考えうる。まず④個人内の条件については①言語(イメージ)の質がよいこと(これは必ずしも反応数が多いということの意味しない)、②平凡反応が多いこと、③両貧型でないこと、④自己について、他者のイメージに支持された正確なイメージをもっていること、⑤2者間の条件については①相手の体験型(向性)と似ていること、②相手よりも言語(イメージ)の質がよいこと、③他者よりも平凡反応が多いこと、④他者について正確なイメージをもっていること、⑤相手のイメージ世界を受け入れる受容性をもっていること、などである。この条件は、まだ確かな根拠をもっていないが、今後症例を増やす中で深化させていきたい。

さて、以上のべたSMCを使って、本論の母子についての数値をFig.5に示した。Fig.5からみると、母は妹のイメージの方が理解しやすい(みつけやすい)ようである。また姉は妹の中に自分と最も似たイメージを見つけやすく、母の中にも自分と似たイメージをみつけやすい。妹は母に対しても姉に対しても自分と似たイメージを見つけにくい。この図から、姉は他の2者をイメージの面で理解しやすく、妹は他の2者を理解しにくいというこの家族の関係が浮かび上がってくるが、これに

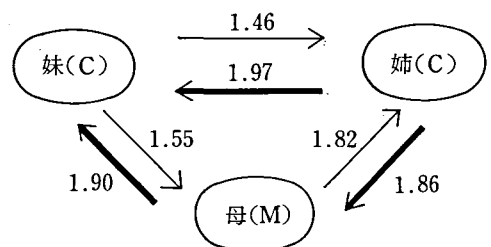


Fig. 5 母子同質性(SMC)からみた母子関係

* ⇄ は2者間において太線(→)の方向の方がSMCが高いことをあらわしている。

* ← はSMC(M→C)・SMC(C→M)の方向(→)をしめしている。

は年齢的なものも関係しているかもしれない。

ところで、母は姉よりもわずかに妹の方を理解し易いようである。これは、先の母子の推測率の結果とも一致している。母は妹の方があっさりして理解しやすかった。姉の方はいっしょうけんめい探す必要がある程に分かりにくいものであった。したがってこの結果から、母→子の推測率と母子の同質性(SMC)は比例していると結論できる。つまり、相手の反応を推測したり、判断したり、受容することの難易度は、相手の中にどれくらい自分と似たイメージをみつけられるかによっていると結論できよう。

選択カードからえられた家族関係と、推測率との間にみられた矛盾

ところで、筆者はここで大きな矛盾にぶつかった。つまり、III、IVで選られた結論では、母はその反応形式において姉と似ており、家族関係の中でもより姉よりの立場にあった(Fig.3参照)。まとめていうと母は姉と、より似ていたし、距離¹⁷⁾が近かったわけである。ところが、ここでえられた結果では母は妹の方のイメージが理解しやすく、受け入れ易いというのである。この矛盾はどのように解決すればよいのであろうか？①この矛盾は推測率のよさやSMCが実際の家族力動をうまく測定できない結果とすべきか？それとも②この矛盾はみかけ上のものであるにすぎないのであろうか？

この問題に決着をつけることははなはだ困難な課題であるように思われるが、解決の第一目として、ここで、①カード選択と②他者カードの推測・判断・受容③SMCのそれぞれが、イメージのヒエラルキーのどの部分をとらえているかについて考察を今一步進めてみたい。ここでFig.1のイメージの階層構造をもう一度じっくり見ていただきたい。この図式は本論全体を考察するための大切な枠組である。Fig.1より、選択カードが測っているのは父親イメージ・母親イメージ・姉妹イメージなど、かなり社会的なまとまりをもったイメージである。自己イメージ・好き嫌いイメージもこれに準ずる。したがって、選択カードを使って測定した家族関係はかなり具体的で、より客観性をもった、抽象度の高い社会的次元でのイメージな

のではないかと考えられる。ところが一方、他者カードの推測・判断・受容はもう少し感覚的なレベルに近いイメージのレベル、したがってより主観的なイメージの次元を測定しているといえないだろうか？SMC(同質性)にいたってはさらに感覚的、主観的次元のイメージである。このようにみるならば、本論の症例については、④社会的なまとまりをもった、より客観的なレベルでは母は姉により近い存在であるが、⑤感覚的な、より主観的レベルにおいては妹の方がより理解しやすく、同質性の高い存在であるといえるのではなからうか？

岡田¹⁸⁾はイメージの中で、「イメージが物質に形を与えたもの、物質を素材として外化(客体化)したものを〈物的イメージ〉としているが、父親・母親・姉妹に対するイメージにはこのような物的イメージの側面が強いのではないかと思われる。このように物的なものであるだけにまた、家族の関係を变えていくことは至難の技なのであろう。われわれは、たびたび、心理療法の場面では相手を変えることができても、彼が一端家族の中に帰ったら元の木阿彌という経験をするが、このことから家族というこの物的イメージを変えることの困難さが分かっていうものである。

ところがそれに反して、他者の反応の推測という二者関係(対関係)の側面においては、より柔軟性のある関係が認められる。他者である子どもを受け入れようという母親の態度の変化によって母の側のイメージの受け入れ(受容)は容易に増加する。心理療法の進展にしたがって子どもの受け入れが良くなることや、理解が増すことは、われわれの日々経験していることなのである。この二者間の改変の良さにこそ個人心理療法の根拠がある。したがって、家族力動の中にあらわれた妹の孤立は、それを孤立として実感し、妹をよりよく理解しようとする母親の意識的な努力によって、妹への理解力のよさを増していったといえるのではないか？その努力の中で、母は妹のイメージ世界に対する注意を日常生活の中でも研ぎ磨していったと思われる。事実、妹の反応を推測する作業の中で母はしきりに「あの子は～が好きだから」「～に興味をもっているから」といつていたが、筆者は母が子どもの興味を細かく知っていることに

感心した。(これには、妹の方が年齢的にみてより自分の内面世界を言語化することが多い、大人より子どもの方が卒直であるということも影響しているかもしれない。)

結論としていえば、母と姉はより無意識なレベルで似ており、母と妹はより意識的なレベルで似ていると思われる。(またSMC(M→C)は妹の方が高いとはいえ、妹のSMC(M→C)=1.90、姉のSMC(M→C)=1.82とその差はわずかであるということも申し添えておきたい。)

要約

ノーマルな児童2名(姉=17歳、妹=12歳)を被験者とし、その母親にそれぞれの子どものロールシャッハ反応を推測(判断・受容)してもらった。この一連の手続をExchange Rorschach Method(交換ロールシャッハ法:ERMと略記)と名づけた。

さらに、母子3人の各被験者に父親・母親・自己・姉妹・好き嫌いカードを選ばせ、その他に新しい試みとして、母に、2人の子どもがどのカードを上述のカードとして選んだかを推測してもらった。この結果から、この家族固有の家族力動が明らかになった。

次にERMによる、母の子どもの反応に対する推測(推測率)のよさと母子の同質性(SMC=Similarity of Rorschach Responses between Mother and Child)を指標化し、この結果から、妹、姉と母のそれぞれの母子間に固有の母子関係が分かった。

考察の結果、この母子においては①推測率とSMCが母子間のより意識的な関係の側面を測定し、②選択カードは家族間のより無意識的な部分を測定していることが示唆された。

イメージにはいくつかの階層があり、感覚的レベル・言語的レベル・社会的レベルが区別されるように思われる。本稿の家族において、推測率・SMCはより感覚的で主観的なイメージのレベルを、選択カードはより社会的で客観的なレベルを捉えているのではないかと考えられる。

今後、各尺度についての改良を目ざし、イメージの内容について深めていきたい。さらに、今回のノーマルな症例を基準にして、先に報告した

Anorexia Nervosa, 夜尿, 心因性頭痛などの症例との比較検討を行なっていきたい。

引用文献

- 1) 井原成男:アノレキシア・ネルボーザ症例におけるロールシャッハ・テストの母子差と治療への適用. 日本心理学会第43回大会発表論文集, 652, 1979.
- 2) 井原成男:ロールシャッハ・テストの母子差と治療への適用. ロールシャッハ研究, Vol.XXIII:145-158, 1981.
- 3) 井原成男:ロールシャッハ・テストからみた母子相互作用(I). 日本心理学会第45回大会発表論文集, 633, 1981.
- 4) 井原成男:ロールシャッハ・テストからみた母子相互作用—ある夜尿児の症例研究—. 長野大学紀要, Vol.3. No.3・4:19-31, 1982.
- 5) 井原成男:イメージの母子相互作用(1)—Exchange Rorschach Methodの試み—. 日本教育心理学会第24回総会発表論文集, 1982.
- 6) 井原成男:イメージの母子相互作用—心因性頭痛をもつ女兒のロールシャッハ・テストに反映した母子相互作用—. 長野大学紀要, Vol.4, No.1・2:43-59, 1982.
- 7) 藤岡喜愛:精神人類学. 臨床精神医学, Vol.10, No.5:549-554, 1981.
- 8) 中沢和子:イメージの誕生. 日本放送出版協会, 1979.
- 9) レイン, R.D. (阪本良男・笠原嘉訳):家族の政治学. みすず書房, 1979.
- 10) Klopfer, B. & Davidson, H.H.(河合隼雄訳):ロールシャッハ・テクニク入門, ダイアモンド社, 1964.
- 11) 福島章:幼児化の時代. 光文社, 1982.
- 12) 秋山さと子:夢解きのマニュアル(別冊宝島夢の本). JICC出版局, 1979.
- 13) 小沢牧子:子どものロールシャッハ反応. 日本文化科学社, 1970.
- 14) 三木アヤ:女性の心の謎—グレートマザーと日本の女性—. 太陽出版, 1981.
- 15) エバンズ, R.I.(牧康夫訳):フロムとの対話. みすず書房, 1970.
- 16) 成瀬牧己:Personal Communication. 1982.
- 17) 井原成男:個体間距離の発達と性差. 教育心理学研究, Vol.29, No.3:227-231, 1981.
- 18) 岡田 晋:映像—人間とイメージ—. 美術出版社, 1969.